

日本史を調べる_はじめの一步

日本史に関する本や文献は非常にたくさんあります。また調査に必要な歴史史料も、現在続々と刊行されています。

日本史を調べるには、これらの資料を駆使する必要があります。

1. まずは辞書から (辞典・事典について)

【 】は当館資料の請求記号です。

全体像をつかむには、辞書が大変便利です。まず全体像をつかんでみましょう。

辞書での調査の際には、まず、本文を読んで内容をつかむとともに、使われているキーワードにも注目しましょう。ここで得たキーワードは、後の資料の検索に際におおいに役立つはずです。

また、「をも見よ参照」という関連する別の項目も当たるとよいでしょう。

参考文献や引用文献が明記されている辞書の場合は、さらにその文献にあたることで調査の次のステップに進むことができます。

《歴史》

■『国史大辞典』全 15 巻 17 冊 (吉川弘文館 1979-1997) 【210/176】【210. 03/3N】

日本歴史全領域を網羅し、さらに考古学、人類学、民俗学、国語学、国文学等の隣接分野にもおよぶ 42,000 点の項目を 50 音順に配列した歴史辞典。参考文献が明記されていますので、調査の次のステップへ活かせます。

■『日本史大事典』全 7 巻 (平凡社 1992-1997) 【210. 03/19N】

総項目は約 25,000 点。ルビが多く、初心者でも調べるのに便利な事典です。

☆その他、『日本歴史大事典』全 10 巻、別巻 2 巻 (日本歴史大事典編集委員会/編 河出書房新社 1985)

【210/411】や、『平安時代史事典』上下巻、資料・索引編(古代学協会/編 角川書店 1994.4) 【210. 36/16N】

『明治時代史大辞典』3 巻 (宮地正人/[ほか]編 吉川弘文館 2011.11-2013.2) 【210. 6/628N】

など時代別の辞書もあります。

■『日本史総覧』全 6 冊+補巻 3 冊 (新人物往来社 1983-1986) 【210/273】

1 巻：考古・古代 1、2 巻：古代 2・中世 1、3 巻：中世 2、4 巻：近世 1、5 巻：近世 2、6 巻：近代・現代、補巻：中世 3・近世 3、補巻 2：通史、補巻 3：近世 4・近代 2 から成っています。

それぞれ、事項が 50 音順に並べられているわけではなく、「国造・県主一覧 (古代)」や「各藩変遷表 (近世)」などが記載されています。「近世貨幣相場一覧」では江戸期各年の江戸・京都・大坂の金一両、銭一貫文の相場が記載されています。

■『藩史大事典』全 8 巻 (雄山閣出版 1988-1990) 【210. 5/6N】

1 巻：北海道・東北編、2 巻：関東編、3 巻：中部編 1、4 巻：中部編 2、5 巻：近畿編、6 巻：中国・四国編、7 巻：九州編、8 巻：史料・文献総覧・索引から成っています。

各地方の藩ごとに概要、藩主一覧 (藩主の変遷) や職制や基本史料について記述されています。

《人名》

■『日本古代中世人名事典』（平野邦雄・瀬野精一郎/編 吉川弘文館 2006）【281/917N】
『国史大辞典』から古代と中世の人名 3372 項目を 50 音順に抽出した人名事典です。神武天皇から天正 17（1589）年までの対象としています。シリーズに『神道史大辞典』（中之島図書館所蔵）、『日本仏教史辞典』【180.3/28N】、『日本近世人名辞典』【281/874N】、『日本近現代人名辞典』【281/578N】があります。

■『国書人名辞典』（市古貞次/[ほか]編 岩波書店 1993-1999）【281/170N】
国初から慶応 3（1867）年までに編纂された国書の目録『国書総目録』に収録された本で伝記の判明する約 30,000 人の編著者を解説した辞典です。著作一覧の他、参考文献にさまざまな人名辞典が挙げられています。

☆その他、地名辞典（平凡社の『日本歴史地名体系』各都道府県【291/95】には引用文献が多用されており日本史を調べる際に有益です。また角川書店の『角川日本地名大辞典』【291/81】）もよく使う資料です。

2. 大阪府立図書館が所蔵する日本史の本の検索

全体像がつかめたら、大阪府立図書館の OPAC で検索してみましょう。

検索の際、書名がわかっている場合は「書名」の欄に本の名前を入れて検索してください。

書名が分からない場合は、

- ・「書名」の欄にキーワード（例：「大化の改新」「関ヶ原」「太平洋戦争」など）を入れてください。その際に辞書で得たキーワードが効果的です。

※「古代」や「江戸」といった広い概念のキーワードで検索すると非常にたくさんヒットするので要注意。

- ・又は、「分類」の欄に数字をいれます。

分類について

日本十進分類法 本の内容（主題）によって下のよう展開します。



例えば、中世なら「210.4」、大阪の歴史は「216.3」という数字を入れると検索できます。

なお、この場合もたくさんヒットするので「書名」にキーワードを入れて掛け合わせ検索してみましょう。

例) 分類「216.3 (大阪府の歴史)」+書名「戦争」で大阪の歴史における「戦争」とついた本が検索できます。

!この数字のラベルの貼っている棚を見て回るのもけっこう効果的! -「ブラウジング」といいます。

- ・研究者がわかっている場合は「著者」からも検索してみてください。（例：考古学→「森浩一」）

検索結果の見方は「調査ガイド NO.1 大阪府立図書館で本を探すには？」をご覧ください。

なお、分野の特化した資料は日本史（210）以外に収められています。

- (例えば)
- ・美術＝美術に関する本の集まっている棚（平家納経などは 4 階 人文系資料室 18-21 の棚）
 - ・政治＝政治に関する本の集まっている棚（昭和の政治の動きは 3 階社会自然系資料室 05 の棚）
 - ・法律＝法律に関する本の集まっている棚（延喜式などは 3 階社会自然系資料室 07 の棚）
 - ・交通＝交通に関する本の集まっている棚（五街道などは 3 階社会自然系資料室 46 の棚）
- 各階をブラウジングしてみてください。

3. 雑誌記事を調べる

本だけでは満足な情報が得られなかった場合、さらに専門的な領域に調査を進めるために雑誌記事を調べてみましょう。

●CiNii 論文情報ナビゲータ (国立情報学研究所) [Web](http://ci.nii.ac.jp/) <http://ci.nii.ac.jp/>

論文を検索するサイトです。掲載する雑誌について、改めて所蔵を確認する必要があります。

なお、[CiNii PDF-オープンアクセス](#)や[機関リポジトリ](#)の表示のあるものは、そのままインターネットで閲覧することも、印刷することも可能です。

 朝鮮通信使の饗応について：大坂における饗応 論文名

A Study of the Banquets Held for Korean Delegations to Japan during the Edo Period : The Osaka Banquets

 [高正 晴子](#) 執筆者
[TAKAMASA Haruko](#)
梅花短期大学
Baika Junior College
参考文献: 38件 

 このしるしがあるので、インターネットで閲覧できます。

この論文を読む／探す

 [CiNii PDF](#) [CiNii 論文PDF - オープンアクセス](#)  [NDL-OPAC](#) [NDL-OPAC - 国立国会図書館で本をさがす](#)

 [CiNii Books](#) [CiNii Books - 大学図書館でさがす](#)

抄録

In this paper I have attempted to clarify the characteristic of the menus for the banquets held in Osaka for Korean delegations during the Edo period. Comparing the 6th Osaka banquet(1655)with the 7th one(1682)for the important officials of the delegations, changes were observed and the banquet for the 10th delegation(1748)tended to be simplified. Also, the delegates who arrived by ship were given food for the journey to and from Edo(Tokyo), and some of the attendants were supplied with food for two or more months when they remained in Osaka. At Osaka, there was the record that venison and whale meat sent by the Kii Tokugawa Household. The delegates were also invited to a drinking party by the Tsushima Household's officials in Osaka before they returned to Korea. Thus, each delegation was civilly received as Osaka, but the banquets became gradually simplified after 1682.

収録刊行物

 [日本家政学会誌](#) [\[巻一覧\]](#)
[日本家政学会誌 49\(9\), 1011-1019, 1998-09-15](#) [\[この号の目次\]](#) 掲載誌名：この場合 49 巻 9 号 (1998 年 9 月) の 1011-1019 頁に掲載
[社団法人日本家政学会](#) 出版者

 朝鮮通信使の饗応について：大坂における饗応

A Study of the Banquets Held for Korean Delegations to Japan during the Edo Period : The Osaka Banquets

 [高正 晴子](#)
[TAKAMASA Haruko](#)
梅花短期大学
Baika Junior College
参考文献: 38件 

この論文を読む／探す

 [CiNii PDF](#) [CiNii 論文PDF - オープンアクセス](#)  [NDL-OPAC](#) [NDL-OPAC - 国立国会図書館で本をさがす](#)

 [CiNii Books](#) [CiNii Books - 大学図書館でさがす](#)

抄録

In this paper I have attempted to clarify the characteristic of the menus for the banquets held in Osaka for Korean delegations during the Edo period. Comparing the 6th Osaka banquet(1655)with the 7th one(1682)for the important officials of the delegations, changes were observed and the banquet for the 10th delegation(1748)tended to be simplified. Also, the delegates who arrived by ship were given food for the journey to and from Edo(Tokyo), and some of the attendants were supplied with food for two or more months when they remained in Osaka. At Osaka, there was the record that venison and whale meat sent by the Kii Tokugawa Household. The delegates were also invited to a drinking party by the Tsushima Household's officials in Osaka before they returned to Korea. Thus, each delegation was civilly received as Osaka, but the banquets became gradually simplified after 1682.

収録刊行物

 [日本家政学会誌](#) [\[巻一覧\]](#)
[日本家政学会誌 49\(9\), 1011-1019, 1998-09-15](#) [\[この号の目次\]](#)
[社団法人日本家政学会](#)

逡
用

初

色々な史料からその記述を抜き出し、集めたものです。収録されている史料は古記録・古文書の両者を含みます。

■『大日本古文書』（東京大学史料編纂所/編 東京大学出版会）【320. 8/301/#】【210. 08/54N】
古代から近世にわたる古文書が収められています。大宝2（702）年から宝亀10（770）年までの古文書を編年順に集めた「編年」と、正倉院・高野山・伊達家などといった、所蔵者別に編纂された「家分け文書」、嘉永元（1848）年の「米国使節ノ渡来」以降の「幕末外国関係文書」を収めた巻と、その付録との三部制となっています。


■『新訂増補国史大系』全66巻（黒板勝美・国史大系編集会/編 吉川弘文館）
【320. 7/197/#】【210. 08/18N】
古代から近世までの主に編纂書物を収めています。例えば、編纂物である「延喜式」や「徳川実紀」などといったものはこれを見るとよいでしょう（例えば「延喜式」は、8～10巻、「徳川実紀」は38～47巻）。また、古代から中世史研究の基本的文献である「尊卑分脈」（58～60巻下、索引別巻2）や、「公卿補任」（53～57巻、索引別巻1）もこれに収められています。この資料集は、頭注にて諸本の異同を詳しく伝えている点の特徴です。


■『大阪編年史』全27巻（大阪市立中央図書館市史編集室）【216. 3/894N】
幸田成友が「大阪市史」編纂に際して収集した編年の史料集稿本を元にした史料集です。市史完成後大阪市役所書庫に置かれていたものを1966（昭和41）年より、本庄栄次郎・黒羽兵治郎の監修で新たに手を加えて刊行したものです。
神武天皇戊午から慶応3年までの、膨大な史料のうちで大阪に関する部分を抜き出して編年に収めたもので、大阪の歴史研究には欠かせない史料集です。

！その他史料について、詳しくは中之島図書館「歴史資料集のみかた」（ホームページのみ）をご覧ください。

●各自治体の発行している都道府県史/市町村史の「資料編」にも多数の「史料」が収められています。

5. インターネットで探す一次資料

●東京大学史料編纂所データベース  <http://www.wap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller>
「大日本史料」や「大日本古文書」、「平安遺文」などのデータベースです。検索が容易な上に画像データで内容を確認できるものもあります。

●国立公文書館  http://www.digital.archives.go.jp/index.html#das_search
国立公文書館が提供する「特定歴史公文書」（歴史的に重要な公文書）のデータベースで、目録情報の検索ができます。資料原本のデジタル画像の閲覧が可能ですので、ご自宅でも利用することができます。

●大阪府公文書館  <http://www.doc.pref.osaka.jp/hx/index.jsp>

●大阪市公文書館  <http://www.city.osaka.lg.jp/somu/page/0000003647.html>

6. 大阪について調べる便利なデータベース

●大阪府立中之島図書館「大阪文献データベース」

 <http://refdb.library.pref.osaka.jp/cdb0100.asp>

●大阪市立図書館「おおさか資料室」  <http://www.oml.city.osaka.jp/net/osaka/index.html>

もっと詳しく → 4階カウンターにお気軽にお問い合わせください！

